

はじめに

校長 金岡千嘉男

干拓前の河北潟は、日本で 20 番目の大きさで、その面積は 2248 ヘクタールであった。農地拡大の目的で埋め立てや干拓が、江戸時代から試みられていた。本格的な干拓工事は、昭和 38 年に国営事業としてはじまり、干拓地 1359 ヘクタール、湖水面 889 ヘクタールが昭和 60 年に完成している。

しかし、干拓工事により河北潟は、気水湖から閉鎖水域となったため、流入する生活排水等による汚染が進行し、現在は、その改善が大きな課題となっている。

本校が、平成 19 年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として採択された「郷土愛育成による環境改善教育システム構築 ― 河北潟リテラシーと創造工学演習による河北潟環境教育と環境改善の取組―」は、本校から数キロメートルと身近にある、汚染された状況にある河北潟を生きた教材として取り上げ、環境改善に取り組むために必要となる基礎知識・技術、取り組む姿勢等を育成する教育システムを構築しようとして取り組んでいるものである。

この課題では、河北潟を取り巻く自然、歴史、文学などを知ることにより、地域の財産としての河北潟の自然を取り戻すための各種の取り組みを行うことにより、地域への愛着の創生と環境改善の必要性を認識させるための教育システムを確立することを大きな目標とし、本科生から専攻科生にいたるまでのほぼ全学生がこのプロジェクトに何らかの形で関与している。

このプロジェクトも採択されてから 3 年が経過し、完成年度を迎えた。本報告書は、これまでに取り組んできたことについてまとめたものである。ご一読いただき、忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いである。